

先生の絵は印象派といえる。印象派は色彩を重ねる。だが山陰の風景はあまり色彩的とはいえない。豊かな色を鳥根半島に、田内の紅葉するハゼの並木に、自宅のバラの花に求められた。ここに油絵の魅力にとり憑かれた先生の姿が伺われる。

先生の作品には、われわれ後輩がいかにも努力しても追いつけぬ気風がある。前黒田清輝の流れを汲む格調の高いものがある。時代を超越した清潤な魂を感じる。われわれは芸術も商品と考えるが、先生には芸術は一段と高いところにあるべきだとの信念があった。

中井先生の竹島の話はあまりに有名で、教員を受けてこの話を聞かなかった人はいない筈である。先生の美校卒業後、日本の洋画界には野心的で男性的なテーマをもった青木繁の「海の幸」、相田三造の「雨風」といった大作が現われた。中井先生もそれらに刺激されて、当時親戚の漁場であった無人島の竹島を題材に選んだ。ここでの絵は後平竹島の帰国問題で外務省の資料となった。

先生は性格温和で実直で、野心的なところがなく、竹島では予期された絵の収穫は得られなかったようだ。しかしこのような性質こそ美術教育家として成功をおさめた所以と思われる。

先生は前田寛治の卒業後赴任して来られたので前田寛治は倉中では教わることはなかったが、彼は浪人中に先生の指導を受けた。彼をして美校受験を決意させたのは、先生の感化によるところが大きかったと思う。倉古地方の美術人口は、鳥取や米子に比べて、その比率が断然高い。しかもそのほとんどは先生の弟子や孫弟子である。永年におたって地方文化を育て支えて来られた先生の功績に、われわれはまだ十分に報いているとはいえない。 (『60年誌』より)



写真1-32 「バラ」中井金三



Photo: Scene of Kinzo NAKAI teaching a class (1941)



## 100th Anniversary Commemorative Publication

Issued by Kurayoshi Higashi High School, Tottori Prefecture (2009)

[Takeshima Reference Room collection]

In 1909 Kinzo NAKAI, a native of Kurayoshi City in Tottori Prefecture, for creating an art project for graduation from his art college, journeyed by ship to Takeshima to observe operations conducted by the Takeshima Fishing and Hunting Limited Partnership Company, a business at which his uncle (Yozaburo NAKAI) was its representative employee. Later, Kinzo NAKAI became a teacher. This is a commemorative publication of the Kurayoshi Middle School (now Kurayoshi Higashi High School) where he served until 1946. In remembrance of Mr. NAKAI, his fellow teachers stated in the publication that all his students had heard about “seal hunting” at “Takeshima” from him.